

供などの活動を行っていただく。今後も推進員の獲得と養成に努めたい。

②4月1日設置の地域包括支援センターにおいて、出向いての相談支援を行っていく。その他各種申請については、出張所で受付ができるよう計画している。

（その他の質問事項）

- ・改革を担う職員プロジェクトチームのその後は。
- ・今後の改革に「財政をよくする懇話会」委員のような方々に提言をいただいては。

結果よりも そこに至る過程をもっと大事にする

社会を目指すそう

山口議員 (1) 教育行政について

①第4次大村市行政改革大綱によりまず、学校給食調理場の施設の老朽化に伴い、市内4箇所に分散する学校給食調理場を統合した新たな施設の建設計画を策定するとありますが、今後の見通しについてお尋ねします。

②食に対する関心が高まる中、食べ物や食べる事について学校教育の中に取り入れようとする動きが拡大してきているように思いますが、食育あるいは農産



ニンジン収穫する竹松小学校6年生

物の地産地消を含めた農業とのかかわりについて学校教育と、どのように連携できると思われるかお尋ねします。

(2) 市民環境行政について

西部地区産廃堆肥化施設は、現在実証試験中なのですが、実際に試験中の工場内を視察された中でのその内容についての説明と、今後の産廃許可に至る見通しについてお尋ねします。

教育次長

(1) ①大村市学校給食共同調理場整備実施検討委員会を設置し建替えの必要性について調整している。投資額や人的配置の効率的運用の観点を踏まえ1箇所統合することとし、平成23年度の建設を目指し計画を

進めていきたい。

教育長

②給食指導や学級活動などの学習において食に関する指導を行っている。今後教職員の指導力向上、地域との連携など食育のさらなる充実に取り組みたい。地産地消については、栄養職員が生産者を訪ね農作物の資料を作成し、それを活用している。地場産物への理解促進を図り、可能な限り活用したい。小学校では地域の方の指導も受けながらニンジン・お茶・ミカンづくり、中学校ではコメ作りや農家体験学習を行うなど、農業との関わりを推進している。

市民環境部長

(2) 地元住民、県央保健所、大村市で汚泥の搬入及びY・M菌を含んだ肥料との混合の様子を観察し、臭い等の確認を行った。同時に検査機関による臭気、騒音、振動の検査も行われた。現在実証試験の結果も含め事前協議が終了していない段階であり見通しは不明である。

市長 地域の声を反映させるよう、今後とも県に対し要望するなど努力したい。

（その他の質問事項）

・条例制定改廃請求について。
・第4次行政改革大綱にある、新たな人事システムの構築と行政職員の定数管理について。

医療の質の向上と安全性を求めて

大村市立病院のE・T・化

児童保育の子供たちを

守るために

永尾議員

(1) 市立病院について

中核病院で電子化された診療情報を診療所がインターネット上で閲覧でき、かかりつけ医としての診療機能向上を図る「長崎地域医療連携ネットワーク（あじさいネット）」が大村を中心に全国で始めてNPO法人で運営されている。これは高度で安全な医療を行うために、基幹病院（長崎医療センター・大村市立病院）とかかりつけ医の間で種々の検査データ等の診療情報を共有するもので、薬の重複投与の防止などにも役立っている。センターでは電子カルテ導入済みであるが市病ではレントゲンだけである。市民の健康を守るために欠かせないオーダーリングシステムをまず導入できないか。

(2) 福祉保健行政について
共働きや子育て環境の変化により児童保育への期待と需要が高まり、本市でも児童数が開所時の10倍以上に増加しているクラブもある。特にほうこクラブは平成18年度には100人を超える予定であり大変な状況であ